

環境学委員会 環境思想・環境教育分科会  
環境教育の思想的アプローチ検討小委員会（第24期・第2回）  
議事要旨

日時：平成31年1月7日（月）13:00～15:00

会場：日本学術会議5階 5-A（2）会議室

出席者：安藤聡彦、岡野隆宏、河野通治、重藤さわ子、高田知紀、豊田知世、豊田光世、  
原子栄一郎、横山隆一、吉永明弘（五十音順）

欠席者：金子祥之、二宮咲子

オブザーバ：関礼子

事務局：宮本直子

## 議 題

### 1. 議題：「妖怪と環境教育『思想的アプローチ』を検討する起点として」

岡野委員より、資料に基づき「妖怪と自然－環境を捕らえなおすアプローチとして－」と題する報告があった。

高田委員より、資料に基づき「妖怪と地域防災～風土性のなかの災害リスクマネジメント～」と題する報告があった。

豊田（光）委員より、「妖怪と環境」に関する研究紹介と、これまでの報告と質疑応答をとりまとめた論点整理がされた。

### 2. 質疑応答

岡野委員の報告に対して主な議論は以下のとおり

- ・妖怪と崇り、妖怪と神との関係
- ・自然界と人間界の境界線の妖怪の存在
- ・妖怪調査後の、地域住民の環境認識や行動の変化

高田委員と豊田（光）委員の報告に対する主な議論は以下の通り

- ・アニメなどのサブカルチャーでは、人間が妖怪の住処を奪うため、妖怪が人間を襲う。  
妖怪はシンプルに環境教育的な意味があるのでは
- ・妖怪と人間社会の差別との関係
- ・都市化の進展やキャラクター化によって、妖怪への恐怖心低下。
- ・キャラクター化された妖怪の環境教育への応用の可能性。
- ・日本らしい妖怪、妖怪のグローバル性。生物多様性が高い地域で信じられている「野生動物でも人でも神様でも無いもの」の存在。ヨーロッパの魔女やコビト。
- ・妖怪WSの結果と行政的課題への応用、地域社会との結びつき。

- ・妖怪と無情（災害に抗うことができない無気力の対応）的な思想、「〇〇してはいけない」という人の主体性に問いかける妖怪、科学や行政的な思想、など、広く体系的な整理が可能では。
- ・自然の畏怖から産まれた妖怪→人間の内面の恐ろしさや社会問題、人間が作り出した人工物に対する妖怪に変化。

### 3. 今後の予定

- ・2019年度内に2回ほど、各々の研究報告を通して方向性を決める。分科会は、夏前（6～7月頃）と秋頃（10～11月頃）開催を予定。
- ・2020年シンポジウム目指す。夏以降は予算が無くなる可能性があるため、2020年4月～5月頃が良いのでは。
- ・次回テーマは、「地図」（アメニティマップ、空間認知、野生動物マップ等）。横山委員と吉永委員が報告予定。

以上